綱領路線と日本共産党の役割

1、自民党政治の「二つのゆがみ」こそ、国民の苦難の大本にある。「二つのゆがみ」をただすホンモノの改革でこそ、豊かで希望ある日本社会にできる

日本共産党綱領2章の結び「対米従属と大企業・財界の横暴な支配を最大の特質とするこの体制は、日本国民の根本的な利益とのあいだに解決できない多くの矛盾をもっている」

(1) 「大企業・財界の横暴な支配」。物価高騰から暮らしを守る最大の対決点。

- ・一方における富の蓄積、一方における貧困の蓄積。

企業の内部留保の倍増、大企業の労働分配率の低下。

超富裕層の金融資産の倍増。

- ・日本は所得再分配効果が低い。大企業・大資産家優遇税制のゆがみ。

- ・大企業・大資産家優遇税制の是正、内部留保課税による賃上げなど、所得再分配機能を高める日本共産党の提案こそ、暮らしを守り、みんなで豊かになる道。

- ・企業団体献金を受け取らないからこそ、国民に利益を代弁し、政治動かす最低賃金引き上げ、サービス残業是正、男女賃金格差是正などリードしてきた高額療養費改悪を予算から削減する先頭に。

103万円の課税最低限引きあげを早くから提案。

(2) 「異常な対米従属」。平和・暮らしと全く両立しないところまで来ている。

- ・80年続いてきたアメリカ言いなりの国から抜け出す時。

- ・すすむ大軍拡は、日本を守るものでなく、アメリカの戦争に進んで巻き込まれる道
昨年の日米共同指揮所演習では、日本有事でない、「台湾有事」を想定。

アメリカのシンクタンクの想定では護衛艦の半数、戦闘機の2分の1～3分の1を失う自衛隊員の命、平和まで「差し出す」訳にはいかない

- ・GDP比3.5%（5%）の軍事費21兆円の要求。暮らしの予算は抑えられ、増税の道すでに4兆円の軍事費増。暮らしに回せば、どれだけのことができるか。

- ・「安保条約廃棄・対等平等の日米関係・非同盟中立」を掲げる唯一の党

憲法9条の改悪許さず、80年間、戦死者を出さずにきた政党としても、各国に働きかける

2、「二つのゆがみ」に手を触れない補完勢力、排外主義・極右勢力

(1) 補完勢力の経済政策、財政ポピュリズムと新自由主義

- ・参政党「国民負担率46%を35%に下げる」、国民民主党「現役世代の社会保険料を下げる」など

- ・「金利のある世界」。赤字国債だのみでは、大規模な恒久減税は非現実的。

・公的保険のカバーする範囲を縮めれば、保険料が下がる以上に自己負担は増え、命と健康は金しだいに。国民負担率36%のアメリカではべらぼうな医療費

(2) 排外主義・極右勢力の流れとは正面から対決し、すべての人の人権・尊厳が守られる社会に

日本共産党綱領「現行憲法の前文をふくむ全条項をまもり、とくに平和的民主的諸条項の完全実施をめざす」。日本国憲法は原則として日本に在留する外国人にも基本的人権を保障している。

- ・人権の問題として告発すると同時に、
- ・現状に照らし、「損得」の議論でも、排外主義に未来がないことを明らかにする
- ・フェイクは放置しない

3、社会主義・共産主義の魅力、党名に込められた歴史とロマンを攻勢的に語る

(1) 気候変動対策で、日本共産党への底深い期待。

日本共産党綱領 「生産手段の社会化は、生産と経済の推進力を資本の利潤追求から社会および社会の構成員の物質的精神的な生活の発展に移し、経済の計画的な運営によって、…環境破壊などへの有効な規制を可能にする」

(2) 人間の自由は共産主義の目的

日本共産党綱領、「生産手段の社会化は、人間による人間の搾取を廃止し、…労働時間の抜本的な短縮を可能にし、社会のすべての構成員の人間的発達を保障する土台をつくりだす」

(3) 「一党独裁に反対」など、中国・旧ソ連からくる誤解を払拭する取り組みを日常的に

日本共産党綱領、「さまざまな思想・信条の自由、反対政党を含む政治活動の自由は厳格に保障される。「社会主義」の名のもとに、特定の政党に「指導」政党としての特権を与えたり、特定の世界観を「国定の哲学」と意義づけたりすることは、日本における社会主義の道とは無縁であり、きびしくしりぞけられる」

以上